

平成7年度

# 三翠化学会総会報告

## 三翠化学会

(題字は稲川先生)

第43号  
平成7年12月1日発行  
三翠化学会  
津市上浜町1515  
三重大学農芸化学コース内  
電話/津(0592)32-1211  
振替/名古屋9-5934  
印刷/株式会社あるま  
TEL(052)332-0861 大8 長谷川正一

### 新装なった大講義室にて 新会長に福田氏(大一)選出!! 新たに女性副会長がおかれる 併せて三重県支部総会開催

平成7年度三翠化学会総会は、六月三日(土)新装なった三重大学生物資源学部大講義室において、退官された赤木、熊澤両先生はじめ現職教官七名の出席を得て行われた。また本副会長を二期つとめられ、多大な貢献を頂いた藪本先生の定年退官をお祝いして、退官記念祝賀会もあつた。

総会は十一時に開始され、嶋田会長の挨拶と、来賓として御列席賜ったコース主任山田教授にお話を頂いた後、議長に大学九回の今井滋氏、議事録署名人に大学三一回の稲垣卓次氏を選出し議事に入った。議事は例年どおり平成6年度の事業報告、会計報告、会計監査報告が担当監事、幹事から行われた後、基金の概要報告が入院中の高橋担当理事にかわって嶋田会長から行われた。ひきつづいて、役員人事に入り、平成七、八年度理事が選ばれ、会長に大学一回の福田映氏が満場一致で選任された。副会長は、本年度から従来の二名から三名となった。これは、昨今の女子学生の増加に伴い会員中にしめる女性の割合が急増することをうけ、女性の副会長をおくことが昨年度の総会で決定されたことを受けたものである。副会長として渋谷明氏

(大四)、杉崎清子氏(大一六)、女性から、小畑仁氏(大一一五)学内からの三氏が選任された。その後直ちに新会長の挨拶と評議員の委嘱が行われ、ひきつづいて平成七年度事業計画、予算案が提案され、新しい役員の下に本会の更なる発展の気運が感じられた。新役員は別紙のとおり。

当した三年次の学生も面目をほどこした。農芸化学展は、模範店の目立つ大学祭の催しの中で、数少ない専門を生かした展示であり、ご覧頂いた先輩方にも、農芸化学の伝統が絶えることなく受け継がれていることを実感して頂けた。

懇親会・藪本先生退官記念祝賀会は、新築された講義室(三翠ホール)横の第二食堂で渋谷副会長の進行で盛大に行われた。来賓としてご臨席頂いた赤木盛郎先生にご挨拶頂いた後、松田英治氏(専一)の音頭で乾杯し祝宴に入った。藪本先生を囲んで話に花が咲くうち時がたつて、恒例の正調応援歌を今西氏(専二)の発声で吟唱し、渡辺元会長(専一)の発声で万歳を三唱してお開きになった。

### 三重県支部 総会報告

三翠化学会総会終了後、三重県支部総会が開催され、近藤支部長(大二)による会務報告のあと役員人事が行われ、次期支部長として池山洋久氏(大一一六)が選任された。三重県支部ならびに三翠会三重県支部連絡協議会新役員は別紙のとおり。

### 会長就任のご挨拶

福田 映

三翠化学会の今日までを振り返り、立派に会を運営していらつしやうと見ます。歴代会長が卓越したことにかねがね敬服しておりました。先日来嶋田会長始め役員の皆様より次期会長候補としてのお話を頂き、その任に非らずと承知いたしました。総会の席上、同窓生と云うのは良いものではないかと、長幼の序はあれども、一般の社会、役所や会社は、その気持をより強くより高く醸成して、産、学、官、各界に於て活躍している同窓生が、又

### 藪本義雄先生 定年退官記念祝賀会 農製研究OB会を 「三翠あすなる会」と命名

藪本義雄先生は三重大学農学部農芸化学科を昭和三十三年三月に御卒業され、直ちに三重大学農学部附属農場に奉職されました。先生は永年農場の農産加工分野での研究教育に御尽力され、優秀な人材を世に送り出され、平成七年三月三十一日をもって定年退官されました。これを記念して祝賀会を去る平成七年五月二十日(土)十二時よりホテルプラザ河津にて開催しました。藪本先生をお迎えして、はじめに今井、勝崎両先生の司会で小宮の挨拶、前田慶氏(大一一)の卒業生を代表してお祝辞を頂戴したあと、福田映氏(大一一)の音頭取りで乾杯し、祝宴に入りました。出席者は先生を囲み、総勢四〇名ほどであった。会中は、最後は締めくくりに鉢柄修氏(大一一)の音頭取りで万歳三唱して、午後三時頃に会を閉じました。(小宮孝志 記)

平成7年度事業計画				平成6年度事業報告			
平成7年	5月30日	第1回役員評議員会及び基金運用委員会		平成6年	5月20日	第1回役員評議員会及び基金運用委員会	
	6月3日	平成7年度総会及び藪本先生退官記念祝賀会(三重大学)			5月28日	平成6年度総会及び嶋田先生退官記念祝賀会(名古屋)	
	7月	第2回役員評議員会及び基金運用委員会			9月16日	第2回役員評議員会及び基金運用委員会	
	9月	会報第43号発行			10月30日	会報第41号発行	
	12月	第3回役員評議員会及び基金運用委員会		平成7年	2月15日	第3回役員評議員会及び基金運用委員会	
平成8年	1月	第4回役員評議員会及び基金運用委員会			3月31日	第4回役員評議員会及び基金運用委員会	
	3月	会報第44号発行			3月31日	会報第42号発行	
		その他新入生歓迎会、こうより補助、卒業・修了記念品贈呈				その他新入生歓迎会、こうより補助、卒業・修了記念品贈呈	

平成7年度予算				平成6年度決算報告			
収入の部	前年度実績	予算	備考	収入の部	予算	決算	備考
前年度繰越金	¥469,904	¥701,683		前年度繰越金	¥469,904	¥469,904	
会費収入	¥1,095,000	¥900,000		会費収入	¥1,000,000	¥1,095,000	470名
雑収入	¥60,000	¥5,000		雑収入	¥5,000	¥60,000	平成6年度総会より
預金利子	¥5,493	¥5,000		預金利子	¥5,000	¥5,493	
計	¥1,630,397	¥1,611,683		計	¥1,479,904	¥1,630,397	

平成7年度予算				平成6年度決算報告			
支出の部	前年度実績	予算	備考	支出の部	予算	決算	備考
会報印刷費	¥366,896	¥400,000	会報43、44号	会報印刷費	¥500,000	¥366,896	会報41、42号
郵送通信費	¥301,832	¥320,000	会報発送・会議連絡	郵送通信費	¥400,000	¥301,832	会報発送・会議連絡・振替手数料
会議費	¥152,382	¥200,000	役員・評議員会	会議費	¥250,000	¥152,382	役員・評議員会
人件費	¥32,000	¥50,000	会報発送アルバイト	人件費	¥100,000	¥32,000	会報発送アルバイト
三翠会連絡協議会	¥20,000	¥30,000		三翠会連絡協議会	¥30,000	¥20,000	
負担金				負担金			
事務費	¥52,782	¥70,000		事務費	¥150,000	¥52,782	プリンタトナー、タックシール
予備費	¥2,822	¥541,683		予備費	¥49,904	¥2,822	弔電
計	¥928,714	¥1,611,683		計	¥1,479,904	¥928,714	
差引残高	¥701,683	¥0		差引残高	¥0	¥701,683	次年度繰越金

その先輩が今まで以上にお互いに助け合える同窓会に発展してほしいものと思ひ、又その為に微力ながらも尽くす事が出来ますればと思ひ、皆様のご理解とご協力をお願いして会長就任のご挨拶とさせていただきます。

別府 宏 専 1	東海支部長 池山 洋久 大 16	三重県支部長 原 正之 大 32	益川 博 大 30	中北 隆也 大 27	田中 完爾 大 25	寺沢 修平 大 23	坪内 一夫 大 20	杉崎 護 大 16	今井 滋 大 9	長谷川 正一 大 8	花山 信勝 大 4	田中 秀志 大 3	小林 重一 大 2	鈴木 幸郎 大 3	嶋田 協 大 3	中川 潔彦 大 2	渡辺 和巳 大 1	嶋林 幸英 大 1	今西 勝 大 1	杉崎 清子 大 16	小畑 仁 大 15	副会長 洪谷 明 大 4	会長 福田 映 大 1
----------	------------------	------------------	-----------	------------	------------	------------	------------	-----------	----------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	------------	-----------	--------------	-------------

平成7・8年度  
三翠化学会役員

三翠化学会 役員名	三翠会支部 役員名	氏名	卒業回数
支部長	副支部長	池山洋久	大16
副支部長 (南勢)	理事	福田 映	大1
副支部長 (北勢)	理事	花山信勝	大4
副支部長 (中勢)	理事	杉崎 護	大16
幹事	幹事	杉崎 滋	大9
幹事	幹事	原田俊夫	大1
幹事	幹事	林 真栄	大11
幹事	幹事	小畑 仁	大15
監事	監事	鈴木克巳	大12
	評議員	近藤清夫	大2
		数本義雄	大4
		高橋孝雄	大6
		板谷昇次	大5
		広瀬和久	大20
		寺沢修平	大23
		中北隆也	大27
		稲垣卓次	大31
		原 正之	大32

今西 康隆 大12	林 真栄 大11	伊藤 道子 大10	平田 満磨 大9	藤本 公三 大8	今井 照夫 大7	佐野 正 大6	板谷 昇次 大5	数本 義雄 大4	關雲 明男 大3	深尾 治郎 大2	西山 正之 大1	鈴木 重夫 大3	大道 敏行 大2	倉田 三郎 大1	古市 幸生 大13	勝崎 裕隆 大36	菊田 修一 大30	梅川 逸人 大14	久松 真 大8	田中 実 大20	西川 司朗 大20	田口 寛 大17	原 万里 大32	基金庶務 高橋 孝雄 大6	幹事 基金会計 白井 宜一郎 大19	監事 若林 昌美 大17	松村 昌美 大15	関西支部長 西元 勝也 大14	長瀬 和雄 大1	関東支部長 岡田 勝宏 大13
-----------	----------	-----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------	----------	-----------	----------	----------	---------------	--------------------	--------------	-----------	-----------------	----------	-----------------

駒田 洋 院 10	高田 佳恵 生 4	杉浦 和彦 生 3	林 秀謙 生 2	武村 政春 生 1	山田 義浩 大 39	中川 仁 大 38	小村 大輔 大 37	若山 秀人 大 36	出岡 裕哉 大 35	青山 茂樹 大 34	粉川 英治 大 33	伊藤 誠二 大 32	稲垣 卓次 大 31	岩崎 誠二 大 30	中道 裕久 大 29	栗田 修 大 28	百済 勝彦 大 27	深田 理 大 26	伊藤 真 大 25	古山 順啓 大 24	寺沢 陽子 大 23	古川 公男 大 22	田中 忠 大 21	広瀬 和久 大 20	白井 宜一郎 大 19	内藤 茂三 大 18	佐脇 寿郎 大 17	池山 洋久 大 16	坂本 一泰 大 15	西元 勝也 大 14	岡田 勝宏 大 13
-----------	-----------	-----------	----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	------------	-----------	-----------	------------	------------	------------	-----------	------------	-------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------



外観 (右端は旧館の2号館)

今年の六月に竣工した新館(二期工事分)への引っ越しが、我が農芸化学は夏休み中には完了しました。そして現在は研究も軌道に乗り、快適な環境の中で、日夜、研究・教育に励んでおります。今回は、その新館内部の様子を少しお見せします。実物の全体を見に、ぜひお越し下さい。いつでも大歓迎します。

なお、永年使ってきた旧館は、すでに当学部の手を離れて大学本部の管理する建物となっており、ロッキングアウトされており、立ち入りできませんが、「取り壊し予算」の都合で、旧館の1号館と2号館はまだ当分の間、残りそうです。

## 新館への移転 めでたく完了!!

快適な環境の中での  
近況スナップ

(解説・写真/田口 寛)



研究室の例 (生物化学分野の主実験室の様子)



2年生の学生実験室 (小畑教官の「無機化学実験」の実験中の様子)



大講義室 (農業生産学コース・谷山教授担当の「生物資源育成学概論」の講義中)



教官室の例 (筆者の部屋)



講義室 (筆者担当の「生物化学I」の講義中の様子)

# 今年の就職試験状況

農芸化学主任 山田哲也

今年の就職戦線は超氷河期と世間でも云われている様に就職希望の学生諸君は大変苦勞しています。

しかし、この間でもまだ模様が有り、四年男子は比較的簡単に決定しましたが、女子は非常に苦戦しております。

昨年と比べても様変わりしたいくつかの点を述べますと

一、大学を通じての求人が激減したこと。即ち、求人誌を通じての求人が完全に一般化し、企業も大学を通じて求人するより寧ろ広く人材が得られしかも就職希望者が以前より十倍以上に増加したと、景気の良いときに人集めで非常に苦勞した人事担当者にとっては喜ばしい状況と云えるでしょう。これは反面では景気の良いとき良い人材を送ることをさぼっていた私達大学関係者に対する痛烈なしっぺ返しでしょう。

私の考えではこの傾向は増々強まり、結果として将来は米國並みになり、大学は就職あつせん機能を殆ど失ふことになると思います。これは教官にとってはある意味では淋しいことですが、一面救われる点も大きいと思います。少なくとも主任になると春から初夏にかけて、一日の大半が求人について訪問頂いた方々の面談で暮らしてしまつた過去が全く信じられない程で、今年は訪問者は数名でした。

二、学生諸君が求人誌を通じて得た情報で、自分で積極的に求職にどんどん動いていることです。従つて企業側から、こんな学生から申込みがありましたので、学生に試験日を通知下さいと連絡をもらう事が増えました。

私共は求人の申し込みがなかつたので「今年は採用を見送つたのかな」と思い込んでいた事が、こんな経緯でそうではないと知ることが多くありました。前述の理由で企業の人事担当者もこれを学生の積極性の尺度と考へて歓迎している様です。

以上思い付くまま勝手に述べさせてもらいましたが、未だ未決定者も何人も居りますので、是非卒業生の皆様に就職関連の情報を私共へ寄せて頂けます様お願いする次第です。

三、院生が敬遠され始めたこと。今年は大手製パン企業は全て院生は採用しないとの方針を打ち出しました。これは多分大学院を出ると現実的仕事を嫌う、又は現場に出すと退職し易いと考へたためだと思います。問題はこの傾向が製パン業界だけでなく他の部門の企業にも広まりつつあることです。私共の認識では学生が大学院に二年在学すると、この間に教官が密着した形で指導するため、驚く程レベルも能力もUPするので、企業の即戦力となると考へます。従つてこれは企業側の誤解と私共のPR不足によるものと思いますので、企業側に再認識頂きたいところです。

三、院生が敬遠され始めたこと。今年は大手製パン企業は全て院生は採用しないとの方針を打ち出しました。これは多分大学院を出ると現実的仕事を嫌う、又は現場に出すと退職し易いと考へたためだと思います。問題はこの傾向が製パン業界だけでなく他の部門の企業にも広まりつつあることです。私共の認識では学生が大学院に二年在学すると、この間に教官が密着した形で指導するため、驚く程レベルも能力もUPするので、企業の即戦力となると考へます。従つてこれは企業側の誤解と私共のPR不足によるものと思いますので、企業側に再認識頂きたいところです。

三、院生が敬遠され始めたこと。今年は大手製パン企業は全て院生は採用しないとの方針を打ち出しました。これは多分大学院を出ると現実的仕事を嫌う、又は現場に出すと退職し易いと考へたためだと思います。問題はこの傾向が製パン業界だけでなく他の部門の企業にも広まりつつあることです。私共の認識では学生が大学院に二年在学すると、この間に教官が密着した形で指導するため、驚く程レベルも能力もUPするので、企業の即戦力となると考へます。従つてこれは企業側の誤解と私共のPR不足によるものと思いますので、企業側に再認識頂きたいところです。

## 滝先生を偲んで

去る八月五日、三重大学名誉教授滝基次先生が急性肺炎のため八十五歳にてお亡くなりになりました。あまりにも突然のこととて、誠に心痛に耐えませんでした。

先生は、昭和九年東京帝国大学農学部を卒業後、茶業組合、蚕業試験場、三井物産を経て、昭和二年三重農林専門学校に赴任され、昭和十八年から昭和四八年まで三重大学農学部教

授、さらに昭和五六年まで松坂女子短期大学教授として活躍になりました。退官後もしばしば研究室に來られ、澱粉の研究を続けられたり、学生の指導までしていただきましたが、と

にかく記憶力抜群で生き字引きのようであり、澱粉のことなら文献を調べる前に、まず先生にお聞きするのが常でした。そして、研究に対する情熱は最後まで

で衰えを知らず、我々はただ敬服するばかりでした。ここに、心よりご冥福をお祈りし、ご報告させていただきます。(久松)



## 恩師の近況

### 赤木盛郎先生

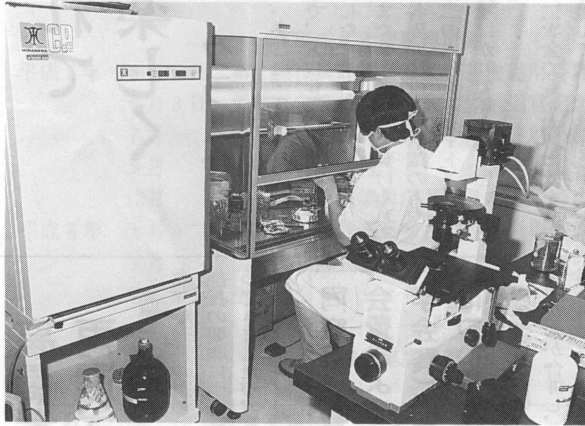
会員の皆さん御元氣か。昭和二十年終戦直後の九月、半ば焦土と化した大学キャンパスを巣立ち、大阪市立生活科学研究所農産科に三年半勤務、二十四年四月縁あって農産部の前身三重農林専門学校農産製造科に赴任して三十七年、六十年三月三重大退官後、直ちに享栄学園鈴鹿短大生活学科に七年間勤務後定年退職。その間名古屋大学農学部、三重大学教育学部や一般教育その他でも永年教鞭をとつてきた。光陰矢の如しを身を持って実感している今日この頃である。

現在の、太陽学園バイオテック

趣味の面では、折角田舎住いをしてるので花卉園芸(キウイフルーツ、柑橘類、柿、栗、四季の花栽培など)、朗吟、旅行、駄句作りなど楽しんでる。とある機会から知人の勧めで詩吟の会に入った。当時五十路も半ば過ぎていた私は、自信も経験も全くなかったが、年相応の趣味をもちたい気持と、ストレス解消、精神統一と深い呼吸による心身の鍛錬をも考え合せ、日本詩吟学院岳風会に入り朗吟を始めた。朗吟を始めるとやれ大きな声を出せとか、力強い声をつくれ、年相応の枯れた声を培え、感情をこめるとかい

ノロジ科で週二日、微生物工学、応用微生物学の講義を担当している。この学園では農化三十五回卒の山田弘美さんが生化学や実験などで頑張つており、その外多くの三重大関係者・卒業生や名古屋大学、三重短大の元教授や教授が講義や実験を担当している。生物工学会、農芸化学会など私の講義に関する出席する諸学会には時間の許す限り出席し講義の充実につとめてい。又居住している河芸町関係では開発審議会に参画し、旧三重大第一農場から西南部にかけての広大なグリーンガーデン構想の推進等につとめている。

飲まんと欲すれば 琴上には催す 酔うて沙揚に臥す 君笑うこと莫れ 古來征戦 幾人か回る 荒涼たる砂漠を背景に白玉の杯で美酒をくみかわす中で戦場におもむく兵士の心情がよまれ、悲しみの情を直接あらわしてないところがかえって悲しみを誘っている。 本宮三香作の 四海波恬かにして 瑞色披く 相生の松は茂りて 枝を鳴さず 高砂の一曲 喜び極り無し 契は固し 三三九度の危



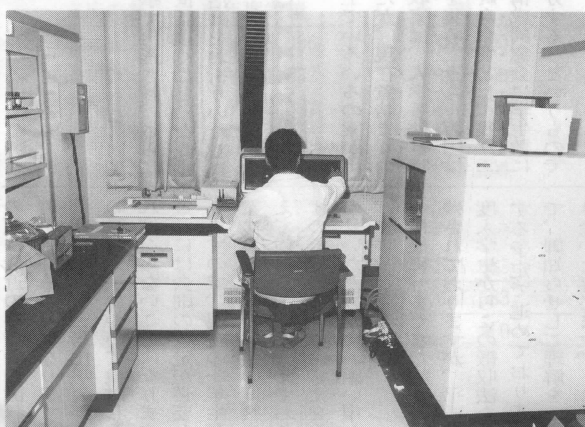
研究室の小実験室の例 (マウスから胸腺を抽出中の増井克彦君)



生物資源学部本館正面 (教育学部から撮影)



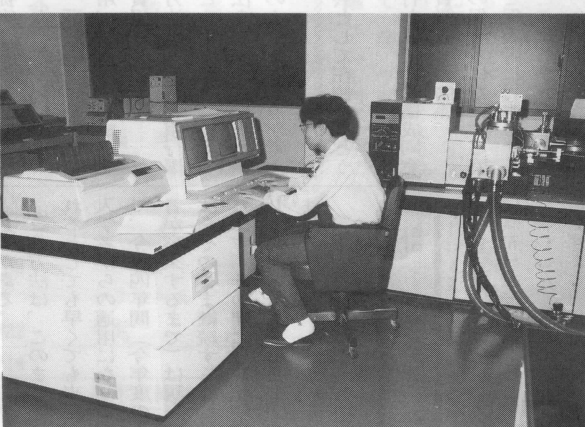
談話室 (タイ・チェンマイ大学農学部・副学部長ビタヤ先生を囲んで討論中)



分子構造分析室 (糖の構造をNMRで解析中の中島広哉君)



機器分析室 (古市教官にアミノ酸分析の指導を受けている藤枝方子さん)



生物機能解析室 (ペプチドをMSで測定中の野村俊和君)

